



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

22

一般家庭で「なぜ犬を飼うのか」を考えると、やはり「家庭、家族の一員として飼いたいから」という理由が返ってくるのではないでしょう。犬を飼ってみようという人の大半が「家族の一員、仲間、友達」として、ともに暮らしているという気持ちになるはず。犬を子供のおもちゃや生活のアクセサリーに、などということでは困るのです。犬はわれわれ人間と同じ「生き物」なのです。

となると、何よりもまず、犬の健康な生活を考えてやらなくてはなりません。狭い室内でセント・バーナードやグレート・デンを飼うのは、当然無理な話です。

犬の品種

## 大きさ、性質...よく考えて

犬の品種には、超小型犬、小型犬、中型犬、大型犬、超大型犬などさまざまあります。

ラブラドルリトリバーやゴールデンリトリバーは、比較的大型ですが、いずれもしつけや訓練がしやすく、十分な運動を与えてやる限りは、室内でもうまく飼える犬種です。従順で我慢強い性質であることもよく知られています。小型では、プードル、シーズーやビションフリーゼなどは、いずれも毛が抜けないことと、やさしく人好きな性質にも恵まれています。他にも毛の抜けない犬がいろいろあることであれば、ベリントン・テリア、シュナイザーなどの品種があります。

また、もう少し毛について述べますと、犬の毛にはヘア（表面の毛）、ウール（肌を覆う綿毛）の二種類があり、シェパードやハスキー犬、日本犬などは寒暑に応じて、特にウールの衣替えをします。したがって飼い主は、季節によって綿毛をしっかりと取り除いてやらなければなりません。シェパードやハスキー犬、日本犬を飼う場合は、このような手入れをできる用意がなければなりません。

犬を飼うということは、十六年から十八年の間、その命を人が預かることになるのですから、よく考えたうえで決めてください。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）